

3・22 ニセ旗！ “グラディオオ作戦” がサタンの祝日にブリュッセルを襲う

【訳者注】まず注目すべきは、ISIS はイスラムと何の関係もないという重要な指摘である。今回のブリュッセル空港事件は、昨年の 2 つのパリのテロ事件に続く、ヨーロッパの中心を狙ったものだが、前と違うところは、「ニセ旗」であることが簡単に見破られたことで、大量に投稿されるユーチューブや論文の大部分が、False Flag、Hoax (ペテン)、Fake (偽物)、staged (演技) といった言葉をタイトルに入れている。ほとんど学術的ともいえるこの論文のように、3・22 という日付の数魔術的な意味を指摘したものも多く、こうした事件のパターン (手口、筋書き) がいつも同じであること、他のニセ旗事件にも“出演”している役者がいること (これについては、具体的に論じたものを別に訳す)、多数のニセの血を使ったニセの怪我人、ニセの赤ん坊、他の事件のフィルムの流用らしいもの、などが指摘されている。

こうしたことから言えることは、彼らに完全犯罪を狙う気は全くなく、ある程度騙せればよいと思っているらしいことである。もともと愚弄ということが彼らの本領である。

Kevin Barrett

VT (Veterans Today), March 22, 2016



Skull and Bones の表象

“過激派ムスリム” (狂信的ワッハブや他の過激 - 清教徒タイプを意味する) は、他者の祝日を祝ったりしない——特にサタン崇拝者の祝日などは。

にもかかわらず、我々は、ISIS（この頭字語は異教の女神 Isis を思わせる）が、大きなサタンの祝日に、ブリュッセルで、大きな人間の生贄を行ったのだと聞かされている。

そしてそれは、すべて“過激派イスラム教徒”のやったことだと。

なるほど。

3・22 という日付（322）は、アメリカの主導的な CIA - フリーメイソン・エリート集団「スカル・アンド・ボーンズ」のエンブレムであるだけではない。

3・22 はまた、3 日間のサタンの Pelusia 祭の頂点で、そこでは——ここに注目——“Isis 神への祈祷”が行われる。<https://survivorship.org/2016-dates/>

Jim Dean が、「こんなことは勝手にできることではない」と言うとき、彼はこの事件をよく理解しているのである。



ロゴと血（？）の模様を比較せよ。

フリーメイソンのサタン崇拝者たちが Isis（または ISIS）を呼び出すとき、彼らはまた別の、豊穡、愛、戦争、それにセックスの女性神、イシュタル（Ishtar）にも忠誠を誓っているのである。

そしてそれは、より良くなる（あるいは見方によって、より悪くなる）。イシュタルは「**アッシリアの北部メソポタミア王国（現在の北東イラクと南東トルコ）で特に崇拝されていた。**」それは現在では、そう、あなたが推察するように、ISIS によって支配されている地域である。<https://en.wikipedia.org/wiki/Ishtar>

もし、あなたが目を丸くして「ええ？ 何だって!？」と言い出さないとしたら、あなたはちゃんと聞いていなかったのだ。

私は 1993 年以來ムスリムであり、イスラム研究一式によって Ph.D を取得した。確実に言えることは、Isis や Ishtar と結びついたサタンの祝日行事を行うなど、絶対に“イスラム法によって許される”ことではない。

ムスリムは異教の女神たちに寛大ではない。これは間違いない。

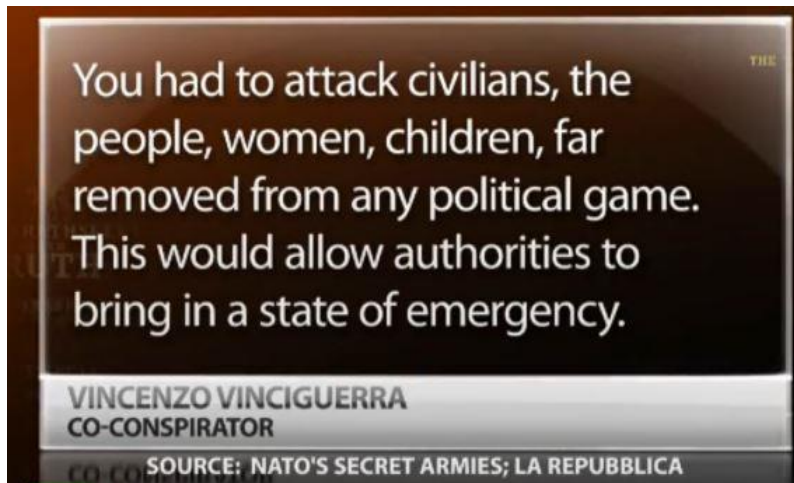
ISIS は、米 - シオニスト集団である。それはイスラムとは何の関係もない。

ムスリムたちは人間の生贄を決して行わない。最大のムスリムの祝日 Eid は、**人間の生贄の終わり**を祝うものである。それは、一神教者が、異教の神や女神崇拝者の生贄の習慣からの、決別を記念するものである。後者は、自分の子供を生きのまま、彼らの神への捧げものとして、焼き、埋葬する習慣をもっていた（人間の生贄と異教の習慣の分析については、[René Girard](http://www.veteranstoday.com/2015/11/10/girard/) を参照）。<http://www.veteranstoday.com/2015/11/10/girard/>

そしてムスリムは、罪のない人々を殺すことはない――

誰でも罪なき者を殺す者は…すべての人間を殺したようなものである。そして誰でも一人のいのちを救う者は、すべての人々を救ったようなものである。(コーラン、5:32)

サタン教の人間の生贄は、イスラム教とは正反対に、無辜の人間を生贄として殺して喜ぶ。犠牲者がより無垢で罪がないほど、サタンの観点からは、…そして、フリーメイソン・サタン教の New World Order の観点からも、同じく、望ましいのである。



「君たちは、市民たち、政治ゲームから遠く離れた民衆、女、子供を攻撃しなければならなかった。そうすれば政府は、緊急危機態勢を導入できるだろう。——ヴィンチェンゾ・ヴィンチグエラ、共同陰謀者」（出典：NATO の秘密部隊、ラ・レプブリカ）

これこそ、テロリズム——ランダムに選んだ罪のない犠牲者を意図的に殺すこと——が政府に繋がったサタン教徒（と彼らの手先）によって、まず一番に実行される理由である。

第二次大戦以来、アメリカのCIAと軍事“介入”によって殺された、5千万の人々の大多数は、罪のない非戦闘員であった。世界の主導的テロリスト集団である米政府が、その最も高いレベルにおいて、フリーメイソンのサタン教徒によって占められているのは、偶然ではない。

私の言うことが信じられなければ、Kay Griggs に聞いてみるとよい。

（ケイ・グリッグズ：大佐の妻のぶちまけインタビュー）

<https://youtu.be/MQNitCNycKQ>

アメリカ - 米軍につながったフリーメイソンのサタン教徒は、冷戦時代のヨーロッパを荒し回った“左翼テロリズム”のほとんどすべてを、ひそかに指揮していた。これは“陰謀論”ではない。それは歴史的事実であって、Daniele Ganser のような人々の注意深い、詳細な著作によって証明され、Paul Williams、Richard Cottrell、その他の人々によって、雄弁に説明されている。

<http://www.amazon.com/NATOs-Secret-Armies-Operation-Contemporary/dp/0714685003>

<http://www.veteranstoday.com/2015/09/23/gladio/>

この同じ人々が今、作戦 **Gladio B** を展開している。それは同じ人々によって行われている、同じテロリズムである。唯一の違いは、かつての“左翼”の代わりに、“ムスリム”に罪をなすりつけることである。

ブリュッセルは、「グラディオ B」のフリーメイソン・サタン教徒が、3・22の祝日に大きなニセ旗攻撃を行うには、自然に考えられる場所である。

ブリュッセルはこれまでずっと、NATO が計画し NATO 総司令部が動かすグラディオ作戦の、主要司令部であった。今回は、彼らは NATO 総司令部から“ほんの数マイル”という便利な所で、ニセ旗を演じた。

ブリュッセル攻撃からわずか数マイルの NATO 総司令部が、警戒度を上げる

<https://www.washingtonpost.com/news/checkpoint/wp/2016/03/22/nato-headquarters-just-a-few-miles-from-brussels-attacks-boosts-alert-status/>

冷戦中、NATO の工作隊は、ベルギーにおいて、普通の人々をスーパーマーケットや歩道などで、乱射して虐殺し、その後で“左翼テロリスト”に罪を着せた。詳細は“Brabant massacre”をグーグル検索されたい。

目的は、ヨーロッパでの左翼の台頭を防ぐことだった。

今日、NATO 工作隊の次の世代が、空港や鉄道の駅で普通の人々を吹き飛ばし、“ムスリム・テロリスト”のやったことにしている。

目的は、ヨーロッパでのイスラム教徒の台頭を防ぐことである。

もし、これらのフリーメイソン・サタン教のニセ旗攻撃が、「**我々はシャルリ・エブドではない**」や「**もう一つのフランスのニセ旗**」で暴露したように、2015年の2度のパリ・ニセ旗事件をはじめ、仕組まれた“レイブ事件”などで、起こっていなかったら、ヨーロッパは、その国境をもっと解放し、ヨーロッパのイスラム教徒の増加を歓迎していたであろう。そして、ヨーロッパのムスリム有権者たちは、2020年ころまでには、ヨーロッパを、イスラエル支持でなく、パレスチナ支持の立場にきっと導いたであろう。

<http://wearenotcharliehebdoblogspot.com/>

<http://anotherfrenchfalseflag.blogspot.com/>

同様に、ヨーロッパのムスリム有権者たちは、諸々の中央銀行の、高利に基づいた通貨システムを終わらせていたであろう。

そして、アメリカのムスリム有権者たちは（彼らは 2000 年にブッシュ大統領を選び、これが悪手だったことが判明したのだが）、アメリカのイスラエル支持を終わらせ、シオニストたちに仕事をさせないようにしたであろう——もし、“テロとの戦い”という偽装をしたイスラムとの戦争がなかったならば。

彼らはまた、ロスチャイルド - シオニストの所有する連邦準備銀行を終わらせ、これを正直で、透明で、高利のない通貨制度に置き換えたであろう。私の [Sami al-Arian とのインタビュー](#) をご覧いただきたい。彼はパレスチナ - アメリカ人の政治オーガナイザーで、ブッシュを大統領にしたが、その後、後悔しながら生きている。

https://youtu.be/txKGEzvm_hs

これこそが、シオニスト中央銀行家や、彼らのイスラエルにつながった犯罪ネットワークが、ニセ旗を演ずることによって、イスラムとの戦争を作りだした理由である。1993 年の世界貿易センター、1995 年のオクラホマ市庁舎（もともとムスリムに罪を着せる意図だった）、1998 年のアフリカ大使館爆破、それに 2000 年の米艦コール襲撃——これらは、2001・9・11 という大事件をもっともらしく見せるための、“先触れの”ニセ旗事件だった。

それ以来、彼らは釜を沸騰させ続け、イスラムとの戦いを機関車として、さらなるニセ旗を、バリ、マドリッド、ロンドン、ムンバイ、パリ、サン・バーナーディノ、そして今度はブリュッセル、その他、多くの場所で行っている。

この最も新しいニセ旗は、ロシアの撤退に乗じて、シリアに“地上軍”を送れという要求につながるのだろうか？ それは、警察国家ヨーロッパの現行の構造を、もっと悪化させるだろうか？あるいはそれは単に、ヨーロッパの国境のロックダウンを要求し、ロスチャイルド - シオニストを憎むムスリムたちが、数や選挙において、意味をもつほどに増えないようにする手段を増強するだけだろうか？